

外来語の表記及びローマ字のつづり方に関する意識調査の計画（案）

○ 目 的

令和5年度までに実施した国語に関する世論調査、外来語の表記に関する実態調査及びローマ字のつづり方に関する実態調査の結果を踏まえ、国民及び日本語を母語としない人々の外来語表記及びローマ字つづりに関する意識を調査し、文化審議会国語分科会における審議に資する。

○ 実施時期

令和6年度 9月頃までに結果を得られるよう調査を実施

○ 実施方法

A インターネットによるアンケート調査

B インタビュー形式による半構造化（あらかじめ問いを準備しつつ、面接の流れに応じて柔軟に対応する）面接調査

※ 被験者の話しやすさに配慮し、可能であれば同一の母語話者や各地域で既に関係性が構築されている人物などを面接者とする。

○ 調査対象

A 主に日本語を母語とする人 6000～9000 名程度（具体的な語については、1500 人ずつに4～6種の調査を実施）

B 日本で生活する日本語を母語としない外国人 80～120 名程度（在留人口1万人以上の国の出身者から、日本語との言語間距離（言語としての異なりの度合い）を踏まえて対象者を選定）

○ 調査内容

AとB共通

- ・ 外来語表記及びローマ字の使用に関する意識
- ・ 日常生活におけるローマ字使用の目的・頻度
- ・ ローマ字使用における各つづり方、長音、撥音、促音等の理解 等

Aのみ

- ・ 具体的な語における外来語表記及びローマ字つづりに対する印象
- ・ 外来語の表記及びローマ字のつづり方に関して不便を感じたこと、困ったこと
- ・ 外来語の意味、用法に関する理解と意識
- ・ 情報機器へのローマ字入力に関する意識 等

Bのみ

- ・ 外来語の表記及びローマ字のつづり方に関して、日本語の習得との関係で不便を感じたこと、困ったこと
- ・ 分かりやすい表記、分かりにくい表記
- ・ 日本語のローマ字表記と母語との関係 等